

# 市長コラム

## ～未来への架け橋～

Vol.18



梅雨の季節を迎えましたが、気温や湿度の変化により体調を崩しやすい時期ですので、市民の皆さんには体調管理にご注意いただきたいと思います。

さて、8月に五所川原立佞武多が3年ぶりに開催されます。新作中型立佞武多「金太郎」をはじめ、昨年10月の「五所川原立佞武多 秋の陣」でお披露目にとどまった大型立佞武多「暫」が、満を持して威風堂々と市街地を運行します。

コロナ禍の収束はまだ見通せませんが、地域の社会経済活動を本格的に回復させていくため、3年越しの再開にふさわしい活気と笑顔に溢れるまつりとなるよう、そして、地域の元気を取り戻す起爆剤となるよう、関係団体と連携して、本番に向けて準備を進めてまいりますので、ぜひご期待ください。

### ★潜在している「ヤングケアラー」への支援

最近「ヤングケアラー」という言葉を目にする機会が増えています。一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを家庭の事情で大人に代わって行わざるを得ない子どもたちのことを指しており、厚生労働省の調査では、小学6年生の約15人に1人、中学2年生では約17人に1人が「ヤングケアラー」の状況にあるという結果が公表されました。友達との交流、部活動など普通の学校生活や当たり前の日常生活が送れず、また、遅刻や早退、学業の遅れなど、子どもの健全な成長に支障をきたしかねない深刻な問題です。さらには、こうした子どもたちには、本人に自覚がない、SOSの出し方が分からないなどといった理由から表面化しにくい実情があります。

こういう状況にある子どもたちは、私たちの身近なところで誰にも助けを求められず苦しんでいるかもしれません。目に見えにくいところに潜んでいる現実に目を凝らし、手を差し伸べることこそ、行政に課せられた重大な使命であると思っています。

今後、民生委員・児童委員の方々はじめ教育、福祉など関係機関と連携し、実態の把握に努めるとともに、社会全体で支える仕組みの構築と支援に取り組んでいきたいと考えています。

### ★人生100年時代に向けて高齢者を応援します！

日本人の平均寿命は、女性が87.74歳、男性が81.64歳といずれも過去最高(令和3年7月30日時点)となり、人生80年時代から、近い将来には人生100年時代が現実になるうとしています。超高齢社会を迎える中、どのように健康で元気に年を重ねるのか、「健康長寿社会」の推進こそが社会全体の目指す姿であると思います。

高齢期のライフステージを価値ある「幸齢期」にすることが、人生そのものの価値を高めることにつながり、そして、社会全体を豊かにするためには、高齢者が生き生きと輝くことが最も大切な要素となります。そのためには、高齢者のボランティアへの参加促進や健康を維持しながら意欲をもって活躍できる場の創出など、自立した自分らしい生きがいの持てる社会づくりを重点的に推進していきたいと思っています。

### ★市民活動や伝統芸能継承に取り組む団体を支援します！

長引くコロナ禍の影響により、これまで継続的に開催してきた活動やイベントが中止や制限を余儀なくされ、また、長年にわたり地域の風土と歴史に育まれてきた伝統的な行事や芸能が活気を失うことが危惧されます。

市民活動や伝統芸能を継承する活動を支援し、再び活力を取り戻すことを後押しするため、市ではこのほど各団体の事業経費の一部を補助する応援事業を実施します。地域振興に資する活動の推進や各地域の伝統芸能を後世に継承するため、行政としてしっかりと応援したいと思っています(3、4ページ掲載)。



『ひばの樹大学開講式』の様子



市浦地区『相内の虫送り』の様子